

会議の概要（議事録）

会議の名称	(番号) 1-38	令和4年度第3回 墨田区図書館運営協議会		
開催日時	令和5年3月18日（日） 午後2時から4時まで			
開催場所	墨田区立ひきふね図書館5階会議室			
出席者数	<p>【委員】9名 日向 良和（会長）、今井 福司（副会長）、影山 祥仁、駒田 るみ子、小島 光洋、藤山 光子、齊藤 宮子、原 平充、大津山 浩美</p> <p>【事務局】6名 ひきふね図書館長、ひきふね図書館次長、ひきふね図書館担当職員、緑図書館長、立花図書館長、八広図書館長</p>			
会議の公開 （傍聴）	公開(傍聴できる)	部分公開(部分傍聴できる)	傍聴者数	1人
議事	<p>1 令和4年度墨田区立図書館事業報告</p> <p>2 墨田区立図書館における電子書籍サービスについて</p> <p>3 その他</p>			
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・資料1 令和4年度各館イベント・展示一覧(抜粋) ・資料2 墨田区立図書館における電子書籍サービスについて ・資料3 令和5年度図書館等の蔵書点検に伴う休館について 			
会議概要	<p>議事1 ・令和4年度墨田区立図書館事業報告に関する質疑、意見 (p.1-2)</p> <p>議事2 ・墨田区立図書館における電子書籍サービスについて (p.2-3)</p> <p>議事3 ・ひきふね図書館10周年記念事業について (p.4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・りんごの棚について (p.4-6) ・各委員から1年間の振り返り、今後への意見 (p.6-8) 			
所管課	ひきふね図書館（電話：5655-2350）			

議事第 1

令和 4 年度墨田区立図書館事業報告

事務局 今年度実施したイベント、展示、事業について報告

小島委員 立花図書館での 1 日図書館員のイベントの募集方法、年齢層、どういう理由で参加を希望したのかを知りたい。

事務局 今回は 2 年生が 3 人、4 年生が 1 人という年齢層であった。募集はポスターを掲示、電話と窓口で受付した。申込みは保護者の方からが多かったのですがどのように希望していたかはわからないが、子どもたちからは、カウンターでの貸出などが楽しかったと感想を聞いている。

影山委員 子どもたちに、図書館で実施しているイベントなどを知らせる手段はどういったものがあるのか。ホームページや来館時に知るということはあると思うが、それ以外に他に何かあるか。

事務局 小学校にポスターを掲示してもらったり、毎週行っているおはなし会などでお知らせをしたりしている。また、図書館ニュースは、図書館以外の施設でも配布している。普段図書館に来館する方が多くなる傾向はあると思う。

影山委員 普段図書館に行かない子どもたちにもこういったイベントを知らせる手段があるとよいと感じた。また、コンサートの場合は資料も合わせて展示したりしているのか。

事務局 視聴覚資料と一緒に展示している。図書もその方にまつわるものを展示した。

影山委員 あと一つ、すみだ小説マップというのは、今の若い子どもたちがアニメ作品などの聖地巡礼を行うみたいで面白いと思った。子供向けの本のマップもあると面白いと思う。

藤山委員 中村航さんのイベント広報も今までどおりの方法で行ったのか。新しい広報の手段を使ったりしたのか。

事務局 中村航さんのツイッターに載せていただいた。八広図書館のツイッターでの広報を、中村航さんにリツイートしてもらったのだが、この効果が大きかった。

小島委員 八広図書館で葛飾区の利用者が多いという話があった。京成線の沿線にあって、駅から近いからという理由であれば、同様のひきふね図書館も利用者の住所地を調べてみると、どれくらい図書館に寄ってくれるかということがわかる。利用者数を増やす戦略として、利用者の導線沿いに広報すると効果的なのではないかと思うので提案させていただく。

日向会長 1 年間各館で非常にたくさんイベントを行っていて、バラエティがとても多い。必ずしも読書とか本に関わるわけではないが、何かのテーマを考えるために本やその他資料と結びつけるということが増えている。やはり区の図書館、特に中央館以外の館は、本を提供することにこだわりすぎると幅が狭まってしまうので、町のインフォメーションセンターやハブとして、住民の方にどんなことを知ってもらおうと墨田区全体がよりよくなるのか考えていただいて、いろいろな切り口で事業を行っていただくとよい。

2点目、展示でリストを作ったときには、できれば他館でも共有して活用できるようにして、同じことを別な場所でもできるとよい。特に立花図書館で行っていた「kumori もくもくよむぞ こんなほん」で、子どもたちがどんな本が読みたいのか、出てきたものをまとめていただけると他の図書館でどんな本を買えばいいのかとか、作家さんにどんな本を書いてもらえばいいのかなど、そういうニーズの調査にもなると思う。

あとは、立花図書館の職場体験で本を選んでもらった際には、ポップを書くのと同時に、どうしてこの本を選んだのかを文章にしてもらおうとよい。私の大学でも中学生が来た際に、大体100字ぐらいの文章で最終的なその職場体験のレポートとして提出してもらった。それを今度は自分たちの選書に役立てられるのではないかな。

最後に、これだけいろんなイベントをする中で、墨田区には、指定管理の団体にインセンティブになるような仕組みを必ず作ってほしい。今は期間の途中なので、難しいとは思いますが、やればやるほど損になる仕組みでは困る。働いている方々がいろいろ企画をして、実施期間は1か月でも、だいたい準備には3か月から半年かかるし、これだけの数であれば、一人の人が同時並行で2つ、3つやっていくわけなので、そういうところをきちんと評価して、支払金額に還元させていくべきである。指定管理者が非常に頑張っている中でそこに報いているのかというところが気になった。指定管理者の次回選定の際に、きちんと評価をするということと、次の契約にその評価を活かしていくということをお願いしたい。

議事第2

墨田区立図書館における電子書籍サービスについて

事務局 資料2「墨田区立図書館における電子書籍サービスについて」について説明

日向会長 今説明があったように4月に契約を行い、実際に利用できるようになるのが6月以降とのことである。予算はどれくらい認められたのか。

事務局 今区民の皆様がお持ちの利用カードの番号を使ってそのまま図書館ホームページから利用していただけるようにするシステム改修費用が一番大きく、書籍の読み放題サービスの費用も含めて合計で約1,200万円程度になる。

日向会長 初期費用の部分もあると思うが、それでも結構な金額がかかる。これは墨田区として導入が決まったということで、図書館としてはこれから区民の皆さんに利用してもらうことが必要になってくる。このことについて、他に意見、質問等あるか。

小島委員 近隣区は利用対象から外れるということだが、今使っている利用カードは在住・在勤・在学などの区分はなされているのか。

事務局 システム内部の登録情報で、在住、在勤、在学、隣接区などの区分がわかるようになっている。

日向会長 電子書籍を販売する会社側からすると、できるだけたくさんの相手と契約したい。そうした中で隣の区が使えるとなるとその区に対して、電子書籍が売れな

くなるという可能性もあるため、販売側から区内の方だけでお願いしますという形になる。

電子書籍サービスを活用していくうえでは、やはり学校へのアプローチが重要である。まず、どのような本が読めるのかということがわからないといけないので、リストを作るなどして子供たちに提供していただきたい。また、学校内で、配布した端末を使って利用するとなると、いろいろと調整や手続きも必要になると思うので、そこは丁寧に行い、教職員の方の理解も得てほしい。担任の先生からの紹介というのは、子どもたちが本を読むきっかけの一つとして大きい。そういう空気を学校側で作ってもらうために、図書館職員が学校へ出向いたり、人によっては健康への影響を懸念する方もいらっしゃるので、例えば使用時間の目安を周知したりするなど丁寧に説明を行うとよい。

ただし、電子書籍になっている子供向けの本で、今の子どもたちが読むような本は100冊あるかどうかというところである。学校の図書室は平均で8,000冊以上蔵書があることを考慮すると、まだしばらく電子書籍は補助的な立場になると考えている。学校図書館の代わりになるものではない。

紙の本であれば、手に取ってすぐに読める、回し読みできるなどの利点があり、そのことも重要なので、学校図書館の活動のベースがあるうえでのこの電子書籍サービスになる。学校図書館へ力を注ぐと同時に、電子書籍がそれを補助する形で両方やっていけるように区のほうにもお願いしたい。

タブレットであればタブレットの大きさでしか本を見ることができないため、特に絵本などは紙のほうがよかったりする。そういう特性やねらいも説明したうえで、例えば本を選ぶところで学校の方の希望を取るなどして連携を取るとうまくいくのではないかな。

青空文庫については、冊数はあるが、あまり利用されない。悪くはないが、古い本がそのまま入っているので、今出版されているものとは文体が違う。砕けているという意味でおそらく読みやすいのは新しく出版されているものになる。

まだまだ電子書籍サービスはこれからということになる。区や学校のほうでも子ども読書を進めるうえで重要な取り組みの一つであるので、学校図書館と連携しながらぜひこちらの活動にもご協力いただければと思う。

今井副会長 電子書籍の最大のメリットは、図書館に来ない方へのアプローチができるということである。私も現在育児をしているが、普段図書館に行けるかというところに行けないことも多い。どこに行くことが多いか考えると、例えば小児科の病院は毎月のように行っているし、そういった子育て世代のよく行く場所に案内を置いてみるだけでも効果が違うのではないかな。あるいは6か月健診などでアプローチをかけるなど、今回対象としているのが子育て世代ということもあると思うので積極的に広報すれば利用者も増えてくるのではないかな。

議事第3

その他

事務局 資料3「令和5年度図書館等の蔵書点検に伴う休館について」、

「ひきふね図書館10周年記念行事（上半期）※次第に記載」について説明
原委員 イベントに関して、今資料に上がっていないものもあると思うが、例年に比べてどれくらい増やすなど考えはあるか。

事務局 10周年ということでの特別な予算は確保できていないため、その中で図書館として皆様への感謝の気持ちをPRしていきたい。これらのイベントについては図書館パートナーズの皆様にもSNS等での拡散にご協力いただきたい。パートナーズ企画のイベントも入ってくると思うのでそちらは図書館としても協力していきたい。

齊藤委員 話は変わるが、前回も話したりんごの棚の話の続きで、私が求めていた物理的なりんごの棚が残念ながらまだ図書館にできていない。ひきふねであれば4階に障害者関連資料がかなりあるし、緑であれば2階に置いてある。それはそれでよいが、問題としているのは、小さなお子さんを連れの方がそれらを見るために階を上がってくるかということである。発達障害とか学習障害を持っているお子さんがいる保護者の方へのサポートについて、議会でも前向きに検討すると発言があったりするので、例えば、ひきふね図書館であればこどもとしょしつで、各図書館であれば絵本コーナーなどで、小さな棚でいいのでりんごの棚を作っていただいて、こういうものがありますと障害者向け資料を展示していただけると、おはなし会にいらした保護者の方などにも、気軽に手にとって、それを借りることができるということが広がるのではないか。

学校の校長先生が委員としていらしているので、学校の図書室の方でもりんごの棚的なものを作って、こういう障害のある人にはこういう本がありますということを広めてほしい。必要な資料は所蔵されていると思うので、隠れた学習障害の子がいた場合などに、これなら読めると思うかもしれないし、障害がなくても、障害のある人に向けた本があるという気付きになると思う。

墨田区立図書館の場合は、サポートしてくださいと言われた時にいくらかでも対応できるだけの実力はあると思っているので、あとは上手にPRしていくことと、学校の方でもお子さんへの啓発をするなどしていけるとよい。

もう一点、各図書館の障害者担当職員の方には点字を読めるようになってほしい。点訳のやりとりで雑誌名のメモをつけ忘れた際に、それくらいは読んでほしいと思った。ぜひ頑張ってください。

駒田委員 障害者をテーマにしたコーナーといったものはあるのだが、障害を持っている子どもたちに向けてということは、生徒の中に対象となる子がいなければ見過ごしがちになるので今後トライしていきたい。

本校には特別支援学級があり、その子どもたちに向けて、週一回図書館から派遣されてきている司書の方に読み聞かせをしてもらったり、子どもたちが本を選んだ

りということをやっている。その際には、通常級と知的障害の学級で特別な工夫はしていないが楽しんでいる様子である。

事務局 りんごの棚については、団体貸出セットとして行っているが、先ほど斎藤委員からあったように、館内に子供向けの棚を設置することは現在していない。どの場所に、本がどれくらい実際に置けるのかということも含め、児童担当とも相談をしたい。

日向会長 知り合いの大学の先生の話では、りんごの棚を設置している公共図書館は全国でも1割程度で、都内でもあまり設置しているところがない。図書館のPRとしても、積極的に取り組むことで、図書館の価値を高めることに繋がるので行っていただきたい。学校との連携の中では、学校図書館は場所が少ないので常設は難しいかもしれないが、貸出セットのような形でたまに来るとか、本当に小さく作ってりんごの形が見えるようにするとか目に見えるシンボルとして置いて、そういうものがあるということに気づいてもらうことが重要である。

最終的にりんごの棚の本の行きつく先は誰もが読みやすい本ということになる。もうちょっと字の大きい方が読みやすかったとか、字体がやさしいほうが読みやすかったという方は実際にいる。読書バリアフリー法という法律もできたので、みんなが読みやすい本という考え方を踏まえて、今図書館にある本をまとめてコーナーを作るという話であるのでぜひ進めていただきたい。

事務局 りんごの棚の貸出セットについては、学校図書館の担当教諭の集まりの際に説明して、ご活用くださいということをしてPRさせていただいている。実際に支援学級へ貸し出したケースも徐々に出てきている。また次年度も4月に説明する機会があるのでPRしていきたい。

また、学校にいる時間は学習がメインということで、学習障害、発達障害のある子どもたちが利用する放課後デイサービスというサービスがあるので、そういった場所への団体貸出等も積極的に行って、活用させていただいているので補足としてお伝えする。

日向会長 公共図書館の普通の本棚にあるということが重要になる。学校図書館も同様で、つまり、関係ないと自分では思っているけれど、目に入って手に取って見たら、こちらの本のほうが読みやすかったと気がつく方がいると思うので今後ぜひお願いしたい。

小島委員 今議論しているりんごの棚とは大活字本のようなものをこどもとしよしつに置いてほしいということになるのか。

日向会長 大活字本は私が知っている限りでは大人向けのものがほとんどである。りんごの棚とは、先ほど言ったような、ちょっと大きな字で書いてあるもの、内容を少し砕いて書いてあるもの、あとは点字や音声で作られているもの、そういったものの中で子ども向けのものをひとまとめにしたコーナーを作るということである。

小島委員 私はある本を読むために、多くの出版社から様々な形態で出版されているものを全部見てみて、一番読みやすいものを選んだことがある。その時は、子ども

向けの児童書、ティーンズ向けと大人向け、全部の書架から持ってきて比べてみた。そういった自分が読みやすいものを手に入れる方法の一つということでよいか。

日向会長 大活字本コーナーというと大活字本のみで1コーナーだが、リンゴの棚は、子どもの本で読みやすいものを集めた見本市である。個人でそれらを集めるのは大変なので、同じタイトルをいろんな形式で置いてあり、一番読みやすいものを選べる場所としての役割も必要で、読書バリアフリー法の中でも、そういう場所として図書館が必要になってくる。

今回は年度最後の開催ということで、委員の皆様から1年間の反省や今後の期待について、一言ずついただきたい。

大津山委員 読み聞かせボランティアとして参加させていただいているが、コロナの影響で私の方はまだ読み聞かせが再開できていない。小学校の中には再開できているところもあると聞いている。私がやっていた頃は、本を広げて読み聞かせをしていたが、今はICTを使ってスクリーンに映し、それを読むということが普通になっていて、ソーシャルディスタンスを取りながらどこからでも見やすく、絵本を読めるようになってきている。ただし、読み聞かせをする側としては少し慣れないと難しいそうである。

私の担当している学校ではまだ再開できていないが、近隣の小学校の催しで、読み聞かせの依頼を受け、大きな模造紙で作った紙芝居を使って読み聞かせを行った。子どもたちは他にもいろいろなゲームなどもある中で、30~40人集まってくれた。今のところまだ読み聞かせできる場所がないので、何かイベント等があれば呼んでいただきたい。

今年度、調べる学習の相談会を体験させていただいて、テーマが重なることがあり、最初の方にはたくさん本を紹介できたが、次に来た人には貸すことができる本が少なかった。事前にテーマを予想して用意するという事は難しいと思うが、例年どういふものが多いかなど分析し、平等に資料が行き渡るとよい。また、珍しいテーマを選んだ方には提供できる資料がそもそも少ないということもあった。

今回たくさん催しの報告があったが、やっていることを知らないものもあった。今後は、また増えていくと思うのでホームページ等で確認していきたい。

電子書籍については、英文をネイティブの発音で読んでもらえるのであれば、語学学習にもよいのではないか。また、病院などでの待ち時間に使用できると便利だと思うので期待している。

原委員 図書館パートナーズとしてイベントに関連して、本を並べるだけでなく、本を読みたくなるきっかけを与えるような活動は引き続き強化してもらいたい。イベントをたくさんやっているということはとても素晴らしいことで、次に本を読もうと思うきっかけになり、良いと思う。読みたいという気持ちがあれば、字の大きさ、形態、難しい漢字などに関わらず、読むことに繋がっていくはずである。小学生でも全国の駅名を覚える子もいるので、そうさせるようなきっかけを与えていけるような活動をこれからもしていただきたい。

齊藤委員 昨年各図書館で点字のワークショップをやらせていただき、新たな取り組みも始めたので、もう少し工夫して進めてみたい。視覚障害だと点字と思われるかもしれないが、視覚障害のサポートはかなり充実してきているので、発達障害や学習障害に関して何か気づいたことがあればまた発言させていただく。

藤山委員 おはなし会のグループ代表として来ているが、会議内の議論を聞いて、こういうふうに資料や表を読むのかといろいろ勉強させていただいた。

小島委員 コロナの影響で一番変わったこととしてデジタル化ということがあり、デジタル化で頭の使い方が変わってしまう。特に今、マイナンバーカードで何でもできると言われているとおり、申請書類も書かなくなってしまう。字を書くということもなくなってしまった。言葉と人との関係が希薄になる危険に対して、図書館で何ができるのかという非常に大事なことがこれから出てくるのではないかと考えている。

影山委員 1人1台のタブレットでいろいろできるようになってきて、本も読めるようになる、今でもそうだが、先生は前にいて、子どもたちは実際に何をやっているかわからないということも出てくるのではないかと考えた。

小学校の先生方の中で、図書館部というものがあり、その中で研究しているが、読書感想文、調べる学習、ビブリオバトル、ブックトークなどいろいろなチャレンジをしようとしているので、図書館のほうと連携して、いろいろ教えてもらいながらやっていけるとよい。この会に参加して知らないことも多く、いろいろと勉強になった。

駒田委員 4点お伝えする。まず、事業報告であった高齢者向けのブックリストが良いと思った。先日、大学生の息子が出身の小学校に読み聞かせの人数が足りず、ピンチヒッターで行くことになった。最初はびっくりしたが、本を通して世代を超える交流ができるのはよいと思った。

次に、吾嬭第一中学校の生徒が、読書感想“画”で、都で二番目の優秀賞を受賞した。ポップや読書感想文もあるが、それとは別で感想画もよいと思ったので今後展開していきたい。

また、報告の中でもたくさん出ていたが、SDGsの関連で、本校では都内4校とオンラインでのブックトークを実施した。そういったことが簡単にできるということもコロナ禍の期間中に学んだ。また、そのブックトークについて国連広報センター寄託図書館の研修会の中で発表する機会があり、参加していた全国の方から興味を示していただけた。ICTを使いながら全国と繋がっていけるという図書館のあり方もよいと思った。

4番目は電子書籍のことについて、来年度からということで、学校の方も慎重になりつつも時期が迫っているので進めていきたいと考えている。

今井副会長 普段学校図書館の研究をしていて、違う自治体で生活をしているが、初めてひきふね図書館に来た際にこんな図書館が家の近くにあったらなと思った。そんな図書館と関わったことをうれしく思っている。

私個人は学校図書館について研究していることもあり、大人はあらゆる選択肢をわかったうえで選択しているが、子どもは選択肢があるかどうかともわからないところから始めなければいけない。だからこそ、選んで使わないというのであればよいが、図書館があることを知らなかった、図書館が使えることを知らなかったという状態を脱さないといけないう観点から1年間発言してきた。

素晴らしい活動をされている方々ばかりなのでどんな形で関わられるかわからないが、またいろいろとできるところはやっていきたい。

日向会長 本当に1年間委員の皆様には協力いただきありがとうございました。ここで交代になる委員もいらっしゃるかもしれないが、また来年度以降、墨田区の図書館、区民の皆様のため、何をすればよいかという視点でご意見をお寄せいただきたい。

図書館のPRになるという話を今日何回かさせていただいたが、やはり区の中で、この図書館なり、もしくはこういう読書システムのプレゼンスを上げていくということが、持続的にシステムを動かしていくために必ず必要になる。なぜこの話をするのかというと、明後日、私はある市の図書館のリストラの会議に出ることになっている。8つを3つにしなければいけない。逆に言えば5つの地域は人口が減ってしまって、お金がなく、維持できないということである。もちろん、それをする首長もしたくてそういうことをしているわけではない。お金がなくて、本当に人口がたくさん減っているのどうしようもない。住民の方から、近くにあった図書館がなくなってしまうということに対して反対運動も起きてはいるが、その中で私が違和感を覚えているのは、本当にそこに住んでいる人はあまり興味がないということである。つまり、反対運動を起こしている方々は都内から移住してきた方々で、元々そこに住んでいる方々は選挙も含めてそんなに争点にしていない。それはプレゼンスが低いから。そんなに必要と思われていないからである。だから、図書館というシステムを残すためにはやはりプレゼンスを上げていくことが必要になる。小学校できえ統合される時代である。東京は今のところ、どちらかというと人口が増えているので、小学校も増えつつあるが、東京でも八王子では、だんだんと減ってきている。そういう時代に子どもに対してのシステム、情報をどう維持していくか。そのためには、まずそこに住んでいる方々に必要だと思ってもらわなければいけない。今日お聞きした様々な活動は、それぞれの視点で、参加した方にはすごくよかったと思っていただいているが、墨田区の何十万人といる中の1,000人、2,000人である。ここから例えば口コミで広がっていくなどプレゼンスを高めることが必要である。りんごの棚は全国で1割しかやってないのでここでPRすればもしかしたらニュースになるかもとか、せっかく10周年なので新聞の取材に来てもらうとか、取材が来てくれるかどうかわからないけれどとりあえずお知らせだけでもしておくとか、そういういろんな形で意識的にPRをしていってほしい。

以上で令和5年度第3回墨田区図書館運営協議会を閉会する。